

脱稿後、必死の奮闘を経て、たゞ、町内の人々、かく扱ふ（あるべき）改めらるゝ

毛沢東なき中国の混乱と将来

中 嶋 嶺 雄

(東京外語大学助教授)

1 毛沢東への評価

「つねに世界中をひっかきまわしてきた男」とは、かつてドゴールが没したとき、なお意気高かった毛沢東にたいして、『ニューヨーク・タイムス』が与えた形容であつた。その『ニューヨーク・タイムス』は、毛沢東の死にたいし、毛沢東の歴史的偉業を大きくたたえ、「西側わけてもアメリカ——は、毛沢東の才能と力の全容をいつまでも評価できなかった。スターリンの巨大な姿が舞台から消えてはじめて、世界は毛沢東の業績を評価しはじめた」と記して戦後国際政治

地図のなかでの毛沢東を際立って位置づけるながらも同時に「毛沢東の真の業績を称讃することは、彼の過ちや中国国民に与えた多大な損失を看過することではない」と述べ、毛沢東にたいする最終評価はまだ留保されねばならないことを説いている(九月十日付『ニューヨーク・タイムス』社説「毛沢東」)。

たしかに、日本の多くの新聞論調とは一味違ったこのような評価こそ、毛沢東の生と死のしたたかな意味をリアルに描き出しているといえよう。毛沢東は、その生涯を通じて中国社会と現代世界にた

いたはず挑戦しつづけたのであつた

が、彼が投げかけた問題は、いまだに最終的な決着を見てはいないのである。文化大革命以来、ことごとくに強調された「社会主義社会での階級闘争論」にしても、ソ連社会帝国主義批判”にしては、いずれもいまだに係争のさながにある問題であつて、(前者については、中国国内にもたえず抵抗があり、後者についてはソ連はもとより、いわゆる「第三世界」においてもこのテーゼへの批判が多い)内政と外交の両面でのこの毛沢東の二大テーゼが歴史の評価に十分耐え得るといふ保証はなにもないのである。

そのうえ、去る一月周恩来の死以来、



'76年6月13日に新華社通信が発表した毛沢東主席の写真

この七月の朱徳の死をはさんで、ついに訪れた毛沢東の死にいたるまで、中国革命の三傑のかくも相次ぐ逝去のあいだには、「走資派」批判、天安門事件、鄧小平失脚、河北大地震などの政治的・社会的激動が相次ぎ、本年に入ってからの中国は息つくいとまなきほど揺れに揺れてきたのである。あたかも王朝末期の乱世を想わせる状況であった。中国のリーダーたちがしばしば引用する文句を借りれば

ばまさに「山雨来たらんと欲して風樓に満つ」というのが昨今の中国なのであった。こうした不安のなかで、毛沢東の生命は、今日の中国に残された数多くの困難な課題と乖離して、独り果てたのである。そのような中国、これからはどんな進路をたどるのであるうか。

2 内政の巨大な不安

毛沢東の死がもたらした内政上の大き

な空白を、どのようにして埋めるのかを展望するまえに、どうしても確認しておかねばならない前提がある。毛沢東死後、中国内政の将来にかんして、すでにさまざまな予測が出ており、その多くは集団指導制への移行を当然のこととして予想しているのであるが、その際にも、この前提はほとんど無視されているように思われる。その前提とは、今日の中国において、現行の憲法（一九七五年一月制定）と党規約（一九七三年八月制定）は、党・政・軍のあらゆる権力が党主席に集中するような組織的制度的保証を党主席にたいして与えてしまっているという権力の構造についての認識である。この点で毛沢東は世界に類例のない集中的な権力を法的には一手に掌握していたのであった。そこで、いかに集団指導制を志向しようとしても、制度的には党主席絶対の体制がすでに出来上がっているであり、この点で現行の体制においては集団指導制はそもそも制度的根拠をもち得ないのである。われわれは、今日の

中国の権力のシステムを考えるとき、このような前提を忘れてはならない、

このような前提の系（コロシアム）として出てくる問題は、革命と建国のリーダー、毛沢東であればこそ与え得たそのような絶対的権力を、毛沢東以外の後継指導者にたいしても与えるという合意が成り立つかどうかという問題であり、もしも、この合意が困難であるならば、現行憲法ないしは党規約の改正によって、権力の分散を制度的にもはからねばならぬことになる。それには、全国人民代表大会ないしは党大会の開催が必要であるが、そのような政治的儀式を挙行し得るかどうかは、やはり当面の大きな課題である。さしあたるの政治日程からすれば、まず党主席をどうするかが焦眉の問題であることはいうまでもない。去る四月の天安門事件で党第一副主席になり、この九月十八日の毛沢東葬儀（追悼式）では弔辞を読んで党主席になり得る華国鋒が果たして党主席になり得るかどうか、もしも党主席になった場合に

は、國務院総理（首相）の地位を兼務するのかどうかやはり注目されるであろう。かりに華国鋒が大方の予想のようにそのまま党主席に就任し、法的には権力を一手に集中したとしても、実態的にはその地位は決して安定的なものではないからいわゆる華国鋒体制を強化してゆくためには、彼は、いわゆる文革派のなかに位置づけられてきたこれまでの政治的立場を毛沢東路線の担い手として半面で継承しながらも、他の半面では、当の文革派から次第に遠い地点に自己の立場を移行させざるを得ないであろう。なぜなら、過般の天安門事件に表出した詩やスローガンが物語っているように、中国民衆内部における文革派幹部への不満と批判、とくに江青夫人と姚文元・政治局員にたいする反発はきわめて根強いようであり、このような傾向は、党の旧幹部や國務院の官僚層から、下放知識青年にいたるまでほぼ共通しているように思われるだけに、華国鋒らの後継リーダーたちは、こうした潜在的潮流に逆

らうことはできないであろう。昨春秋の大寨農業会議では、*左*の江青、*右*の鄧小平がともに重要演説をおこなって鋭く対立したと推測されているが、華国鋒もこの会議では重要演説をおこない、彼の演説だけが公表されている。このことに示されるように、華国鋒はすでにある種の勢力均衡的なバランスサーであるようにも思われる。このバランスサーが、たんに暫定的な妥協の産物としてではなく、みずからのリーダーシップを伴った

三ドリ十字は常に良心の最善をつくして皆様の医療に奉仕しています。



株式会社 三ドリ十字

本店 大阪市城東区蒲生町3-1

「新しい実権派」になり得るかどうかは、一つには、人民解放軍の支持を得られるかどうかにかかっており、二つに



一九七三年八月二十四日、中国共産党第十回全国代表大会で党規約改正がなされた。毛主席の右周恩来

は、中国内政の隠されたカギを握る特務・公安関係の支持を得られるかどうかにかかっている。そして前者については去る七月末以降の河北大地震とその復旧活動が一つの明白な兆候を示唆したように思われる。すなわち、中国では、四月上旬の天安門事件以来、首都工人民兵をはじめ各地の都市民兵が大動員され、民兵の威力が発揮されたのであったが、これら民兵の組織者、指導者は、江青夫人であり、王洪文・副主席であった。これにたいして、河北大地震以降は、「抗震活動」つまり災害救援活動に出動した正規軍としての人民解放軍各部隊の活動が大々的に伝えられ、一方、民兵の活動が抑えられた感があった。こうした一連の動きは、軍は明らかに民兵の活動やそれを指導する文革派幹部に替わっていないことを示しており、同時に、そのような「抗震活動」における華国鋒首相の活躍が目立っていたことも注目されたのであった。やはり軍は当面文革派にたいする支持にはきわめて消極的なようであ



大昭和製紙

社長 齊藤了英

本社 静岡県富士市今井133番地
東京支社 東京都千代田区大手町2丁目6番1号
(朝日東海ビル)

電話 富士(33)0811(代表)
電話 東京(242)2211(大代表)

り、それだけに華国鋒の立場はすでに文
革派を離れつつあるようにも思われる。
第二の特務・公安関係の支持について
は、華国鋒が過去一年半にわたって國務
院公安部長（公安相）であったことは、
有利に作用しよう。今後は、汪東興・政
治局員が統率する特務関係の支持を得ら
れるかどうかにかかっている。

このように見てくると、華国鋒指導部
がかなり強力な政治基盤を形成する道も
なきにしもあらずだといえよう。とくに
今日の中国内部に潜在的にはきわめて広
範な基盤をもつ実務派勢力は、周恩来逝
き、鄧小平失脚ののち、中央では葉劍英
・副主席、李先念・副首相を中心とする
のみであるが、軍の長老、劉伯承・政治
局委員はかつて鄧小平が政治委員を任じ
た第二野戦軍司令であったこと、陳錫聯
・北京軍区司令、許世友・広州軍区司
令、李德生・瀋陽軍区司令という政治局
委員の実力派軍人がすべて李先念・副首
相と同郷の湖北省黄安県出身であること
などを含めて、毛沢東以後の政治権力を

めぐってはこれら実務派の旧幹部や軍人
がやはり大きな力を有すると思われる。

そしてこれら実務派首脳ないしは軍首脳
は、文革派の中樞・上海グループと積年
の拮抗からしても、当面、バランサーと
しての華国鋒を擁してゆくことになるか
もしれない。そうしたなかでもっとも注
目されるのは張春橋・政治局常務委員で
ある。文革派内部の急進派・姚文元と
穩健派・張春橋とは、すでに久しく対立
しているとの見方もあり、いずれにせよ
張春橋の立場が当面のカギを握ることに
なるのではなからうか。ソ連側がかねて
からもっとも注目している人物も張春橋
であり、一方、つい先日、シュレジンジ
ャー前米国防長官とともに訪中して、一
足先に帰国の途次東京へ立ち寄ったアメ
リカの著名なコラムニスト、ジョセフ・
クラフトは、華国鋒には中国の将来を担
い得るだけの重量がまったく欠けている
と語っていた。

このような不透明な状況のなかで当面
の中国のリーダーシップに着目しなけれ



東京舗装工業株式会社

道路建設、舗装工事、アス
ファルト合材、製造・販売

取締役社長 天辰登吉郎

東京都千代田区外神田2-4-4
電話(代)(253)9151-9

ばならない。将来の中国には、これまで
毛沢東を戴いて無理を押し通してきた文
革派にたいする怨念が一举に爆発し、文
革派打倒が叫ばれる可能性、さらには
「毛沢東批判」、ないしは非毛沢東への
道が大きくクローズアップされる可能性
さえあることを含めて、まだまだ政治的
流動がつづくことは疑いない。そもそも
集団指導制が長期的に安定した例は、中
国の歴史にも、社会主義国家の歴史にも
皆無であることをここでさしあたり想

起すべきであろう。この一点においても、中国の内政はまだ揺れるはずである。

3 流動する世界の三極と日本

去る一月下旬、周恩来死去半月後に核実験をおこなった中国は、この九月二十六日、同様に毛沢東死去半月後にまたしても核実験をおこなって毛沢東路線の継承を内外に誇示した。「新華社は全党、全軍、全国各族人民が偉大な指導者、毛沢東主席を心から追悼し、党中央の呼びかけにこたえて悲しみを力に変え、毛主席の教えを実行して、社会主義革命と建設に努めているなかで、その実験はお

こなわれた」(新華社通信、九月二十六日)と発表したのである。こうして中国は、当面、毛沢東路線の継承を内外に示すであろう。

にもかかわらず、大きな注目を寄せている問題は、毛沢東死後の中ソ関係の変化についてである。いうまでもなく、毛沢東の反ソ意識・対ソ強硬論こそそれが歴史的に形成されたものであっただけに、今日の中ソ関係を規定してきた最大かつ根本的な要因であったからである。その毛沢東の死は、ソ連にとって久しく待望したものであり、毛沢東以後の中ソ関係の改善こそ、ソ連側の最大の願望であった。もとより、ソ連の指導者たち

も、中ソ蜜月時代の再来を夢想しているわけでは決してない。だが、今日のように極限状況にある中ソの対立関係が少しでも改善され、中国が少しでもソ連寄り軌道修正すれば、それはソ連の対中戦略の勝利であり、米ソ拮抗時代のソ連の世界戦略の巨大な勝利である。従って、ソ連は毛沢東の死を決定的な転機として、今後さまざまなかたちで対中戦略を執拗に展開するであろう。毛沢東死後のソ連が毛沢東主義批判の論調を一時中止していることも、その一つのあらわれであろう。

もとより中国側は、このようなソ連の働きかけにたいして、きわめて警戒的で

名古屋での ご宿泊は

気品と格調につつまれた
名古屋観光ホテルで。

室料

シングル ¥3,900~¥6,000

ツイン ¥7,700~¥19,000

ダブル ¥9,000

スイート ¥38,000~¥100,000

●ご予約はお早目に
お申し付けください。

桜
草



名古屋観光ホテル

名古屋市中区錦1丁目19-30 千460
名古屋(052)231-7711(代表)

●東京案内所

東京都千代田区内幸町1丁目1番地
帝國ホテル内 〒100
東京(03)591-7017(直通)
東京(03)504-1111内線5360



毛沢東亡き中国は揺れ動く

ある。当面、毛沢東路線からの偏向や逸脱にたいして大いに慎重にならざるを得ない後継リーダーたちは、ソ連にたいしてはとりわけ頑なる姿勢を示すであろう。ソ連や東欧の諸党が打電した毛沢東への弔電の受け取りを拒んだりしているのもそのあらわれである。華国鋒は、毛沢東への弔辞のなかで「二つの超大国とりわけソ連社会帝国主義」との対決を強調して、ソ連を第一の敵とする中国のこ

れまでの方針に変化のないことをあえて示そうとした。もとより、ソ連としては、このような中国の出方は当然織り込み済みであろうから、毛沢東の不在という厳然たる事実を基礎にして、将来の国内政の亀裂と混乱をテコにすべく、今後とも硬軟両極の揺さぶりをおこなってゆくであろう。とくに長期的には実務派路線が文革派に勝利し、軍もこのような路線を支持してこれ以上の対ソ対決を避

Kirabo
Your Casual
Kirabo fabrics
カジユアルウェア

けるであろうとのソ連の期待は、それなりのリアリティーをもち得るように思われる。

このような可能性こそ、中ソ和解への歩みにつながりかねないだけに、アメリカとしては、最大の悪夢なのである。すでに昨年十二月のフォード大統領による「新太平洋ドクトリン」以来、ヨーロッパ・大西洋地域での対ソ・デタント外交、アジア・太平洋地域での対中接近による反「覇権」連合という両義的・二元



的な世界戦略を実行しつつあるアメリカは、中ソ関係の改善を阻止するために、今後、さらに米中接近を促進するであろう。このような方向は、当面の中国の後継リーダーたちにとっても望ましい選択である。シュレジンジャー前米国防長官と華国鏗らの会談が進み、フォード大統領の特命を受けたマンズフィールド米上院議員一行が毛沢東逝去直後にいち早く訪中したことも、こうした米中関係の将来の方向を示唆している。そうした米中関係の新しい発展によって、台湾問題は、米中間のホット・イシューであることをもはややめようとしている。こうして米中国交樹立、米台防衛条約の廢

棄がいよいよ現実的な政治日程にのぼろうとしているとき、流動する世界の三極構造のなかで、日中・日ソというわが国にとつての固有な外交関係は、米中ソ三角関係のなかの一つのサブ・システムとしての意味以上の重要性をアジアの国際関係全体のなかでいまやもつにいたっている。同時に、このような国際関係の流動のなかで、台湾、韓国をはじめ東南アジア諸国の不安や動揺も大きいだけに、わが国としては、これらの諸国の立場をも十分に考えて行動する必要がある。

この点でいまや日中関係は、たんに日ソ関係の表と裏の関係になっているのみならず、アジア全体の安定にかかわる重

要な国際関係になっており、わが国と中国との二国間の関係にとどまらない意味をもつにいたっているのである。そうしたなかで、たとえば、わが国が不用意に「覇権」条項を挿入することを迫られ、その結果、アジア各国はこれまで以上に中ソ対立に巻きこまれ、同時に中ソ和解の可能性に一喜一憂しなければならなくなるであろう。この点からしても、当面の日中平和友好条約交渉にかんしてアジアの国際関係全体を俯瞰し得る広い視野のなかで問題を考えてゆくべきであろう。この点拙速を蔽に慎しみ、巧遅を旨とすべきであること、言を俟たない。

(昭和五十一年九月二十八日記)

こりりと 痛みに!

トクホンチールは「使用上の注意」をよく読んで正しくお使いください。



トクホンチール

肩こり
筋肉疲労
腰の痛み
ねんざ
虫さされ



近代政経

新年特別号

目次

一九七七

■ 巻頭特別対談

新生自民党は期待できるか!?

..... 10

政治評論家

戸川猪佐武

本誌・主幹

野村 拓司

出直し改革・福田政権を待望す

—— 真のステーツマンこそ求められる ——

..... 22

52年度予算の焦点と課題

—— いたずらに福祉に走らず健全化を ——

..... 26

毛沢東なき中国の混乱と将来

—— 新体制の固まる時期はいつか ——

..... 36

ビッグ・ビジネス説明

〔第6回〕

総合力で強味発揮する日立製作所

..... 72